

● サクラメントの環境政策 ～サクラメント電力公社（SMUD）の取り組み

団員 中村 嘉孝

サクラメントは、全米有数の環境政策の先進都市と言われる。今回、視察団は、その一翼を担うサクラメント電力公社（Sacramento Municipal Utility District、SMUD）を訪問、副理事長のビル・スレイターさん、研究開発担当の主席プロジェクトマネージャーであるヴァレンチノ・ティアンゴさん、顧客事業部のアニタ・クレイさんからお話を伺うことができた。

電力が自由化されている米国では、民間・公営事業者が併存し、公営事業者が全米の電力供給の14%を担っている。SMUDは、サクラメント市および隣接する郡（カウンティ）の900平方マイル（約2,330km²）にわたる約60万の事業所・世帯、約130万人に対し電力を供給する公営電気事業者である。



（ビル・スレイター副理事長から説明を受ける）

料金設定や事業計画の策定、総裁（GM）の選任などは定数7名の理事会で決定される。理事の任期は4年。理事は、電力供給地域を7つの小選挙区に分け、SMUD利用者による選挙で選ばれる。ビルさんは3期目、今年、副理事長に選任されたそうだ。理事は電気事業に特化した議員と同等の存在・消費者の代表である。理事会は基本的に市民に公開されており、市民も意見を自由に述べることができる。また、大型事業を行うときには、地域でワークショップ

を開催、後述のスマートメーター設置事業の際には、100回以上の地域説明会を開いたという。顧客（市民）との意思疎通・意見交換を大切にしている公社側の積極的な姿勢が感じられる。SMUDは、事業を展開するにあたり、効率性、環境に優しいこと、低コストを目標にしながら、競争相手の民間事業者より安い電気料金を実現しているようだ。

SMUDが世界的に有名なのは、再生可能エネルギーの利用促進と省エネ・節電の取り組みを数多く行っている点にある。1989年、住民投票により、ミシシッピ川以西では最大規模だったランチョセコ原発を廃炉にした後、その取り組みが加速している。

バイオマス、(小)水力、風力、地熱、太陽光などの再生可能エネルギーの電力供給に占める比率が買電を含めると43%に達し、「2010年までに再生可能エネルギーの比率を20%以上にする」と目標値を定めたカリフォルニア州法を唯一達成した電気事業者だという。(写真はヨセ



(アルタモント峠の風車群)
(半径 50 km圏に 5,000 基以上の風車が並ぶ)

ミテ国立公園に向かう車窓から撮影した風力発電施設の集積地。カリフォルニア州内に他に2カ所、同規模の集積地があるという)

再生可能エネルギーを活用する利点として、地域の雇用創出、経済波及効果、エネルギーの地産地消推進、化石燃料削減、温暖化・気象変動防止などの効果が挙げられ、これからは、バイオマスの開発にもっと力を入れていくそうだ。

省エネ・節電に向けた取り組みは、ダウン・サイズ・マネジメント (DSM) と呼ばれる「投資を行って需要を減らすあるいは制御する」というべき考え方の一環として行われ、節電講習会を開いたり、樹木の植え付けにより木陰をふやし夏場の電力消費量を抑えようとしたり、照明器具、冷蔵庫などの電化製品

の取り替え、建物の断熱化に補助金を出したり、太陽光パネル設置住宅の電気



料金を割り引いたり、スマートメーター／スマートグリッドを導入したり、ハイブリッド車や電気自動車の利用を促進するなどの施策を行っている。こうした取り組みにより、この10年間で15%の節電を実現、新規に発電所を建設するよりコストをかけずに済んだという。こうしたDSMの考え方は、電気事業だけでなく、ゴミ処理や水道などの事業でも適用可能と研究者は指摘している。

(SMUDの電気メーター)

視察時間に限りがあり、細かなことをもっと聞きたい思いもあったが、とにかく消費拡大を是とする

イメージがある米国の事業体にあって、住民自治のもと、環境に留意しながら持続可能な事業展開を民間との競争下で模索するSMUDの取り組みに学ぶことが多く、貴重な視察の機会となった。